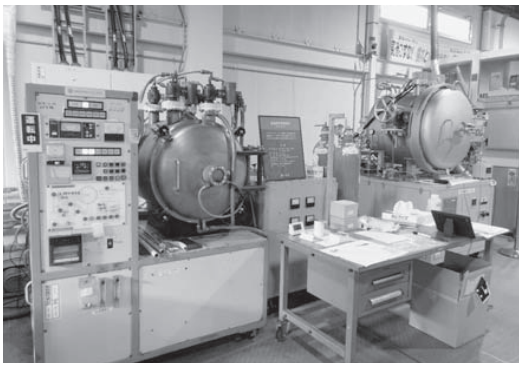
モノづくり現場
～エレクトロヒート技術最前線～ ⑪

電気炉13種 顧客案件に対応

RDセンター

広築（兵庫県姫路市）は製鉄所や工場、ゴミ焼却施設で使う加熱炉や熱処理炉、溶解炉などを手がける。神戸支社（神戸市中央区）内のRDセンターは、企業や大学から寄せられる新素材のサンプル焼成テストや少量の受託加工を年間600件請け負う。同センターの責任者である久保田善明営業部部長は「各種電気炉を持ち、顧客のあらゆる案件に応えられる点が強み」と胸を張る。

RDセンターは2007年、顧客の研究開発支援を目的として開設した。当初から設備は全て電気炉。現在は、太陽電池用多結晶シリコンの焼成に使う高温雰囲気炉、リチウムイオン電池用材料の加工に使うロータリー



RDセンター内にある高温真空雰囲気炉（左）と加圧焼結炉

チューブ炉など13種類をそろえ、さまざまに変化する顧客ニーズに対応している。

電気炉を使うのは、顧客が求める加工データを正確に取得するためだ。調べたい温度と実際の炉内の温度に差があると、焼成時の正確なデータが取れない。電気炉なら240度Cといった設定値に対して、プラスマイナス1度C以内の正確な温度制御を実現できる。

顧客が取り組む新素材開発では、他社より早く開発できるかどうかも重要になる。自前設備が空くのを待っている顧客に対しては、センターの利用による開発期間の短縮を提案し、新素材の外部持ち出しが難しい顧客には設備を貸し出すこともできる。

こうした柔軟な対応は顧客にも評価されており、「新しい顧客は口コミで紹介をしてもらうことが多い」（久保田部長）という。神戸市内の新幹線駅や空港に近い立地の利便性も強みの一つだ。

また最近は、量産のためのデータを求める要望も増えている。同じ温度で焼成する場合でも、素材の量や設備の規模によって加工の条件やノウハウは変わってくる。今後は電気炉の大型化といった設備の改造を進め、量産用データの取得にも対応する。久保田部長も「新素材の性能を最大限生かす最適な焼成条件を調べられる体制を整えたい」と意気込む。顧客ニーズを反映した新しい電気炉の開発にも力を入れる方針だ。

（姫路・村上授）

【事業所概要】▽所在地＝神戸市中央区港島南町4の2の4、078・306・2980▽主要設備＝高速昇温電気炉、ロータリーチューブ炉、高温真空雰囲気炉、高速高温溶解炉、多目的雰囲気炉など

無断転載・複写禁止　㈱日刊工業新聞社